

都道府県・指定都市番号	47	都道府県・指定都市名	広島県	研究課題番号・校種名	2(2) 中学校				
				領域名	へき地教育				
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (2)へき地の学校における教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究 ④へき地の学校ならではの教育資源を生かした特色ある教育活動の展開のための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善								
ふりがな 学校名	はつかいちしりつよしわちゅうがっこう 廿日市市立吉和中学校								
学年等	1	2	3	4	5	6	特別支援	計	学校・地域の特色及び実態等 ・吉和地域は，中国山地の標高600mの積雪寒冷地帯に属し，人口611人の過疎化が進んだ地域である。 ・平成21年度より施設一体型の小中一貫教育を開始し，今年で13年目を迎える，生徒15名（児童36名）の小規模校である。運動会等の地域行事に参画する機会が多く，地域の教育力に支えられている。
児童生徒数	5	8	2					15	
単式・複式	単	単	単					3	
R3.5.1現在	へき地学校の級②，教員数(10)								
所在地（電話番号）	広島県廿日市市吉和 1555 番地 1 (0829)77-2010								
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.hatsukaichi-edu.jp/yoshiwa-ej/								
研究のキーワード ・地域連携 ・総合的な学習の時間 ・SDGs ・説明力									
研究結果のポイント ○総合的な学習の時間を中心に据えたSDGsの視点による教育課程の見直しを2年間行ったことで，来年度からの9か年を見通した総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画，及び各教科の関連性が明確になった。 ○「説明力の育成」を目指して，意識統一して「めあて」と「振り返り」が連動した授業に取り組んだことで，児童生徒が自分の言葉で説明したりまとめたりできるようになってきた。 ○「SDGs」を共通キーワードとした学校と地域の方々が相互に学び合える取組を行ったことで，地域連携が「SDGs」という視点でベクトルが揃い，具体的な取組ができた。									

1 研究主題等

(1) 研究主題

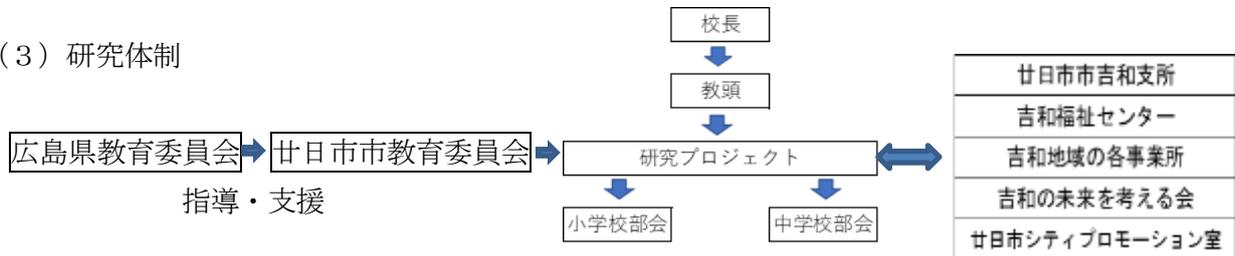
考えを持ち，はっきり表現する児童生徒の育成
 ～SDGsの視点をふまえた教育課程の編成と説明力を高める指導方法の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

本校は，保育園から小・中学校の12年間を共に生活する環境にあり，お互いのことをわかっていると感じているためか，コミュニケーションやソーシャルスキルに課題がある。学校内外で，自分の考えをまとめ，相手を意識して説明したり応答したりする力が弱い。本研究では，説明させる場を設定することを特に意識し，総合的な学習の時間を各教科等で身につけた資質・能力を活用・発揮する場として位置付けて取り組むこととした。また，総合的な学習の時間をSDGsの視点で見直し，行政，地元企業，福祉施設や教育機関等と共に吉和の未来を考えていく教育課程を編成する。情報化やグロ

ーバル化等の社会の急激な変化に伴い、教育内容の量的・質的充実への対応が求められている点から、地域の教育資源を活用した教科等横断的な総合的な学習の時間（課題発見・解決学習）により、児童生徒の説明力を高めるとともに、持続可能な社会（地域）をつくる担い手の育成を目指し、本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和2年度	4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題と研究内容，研究計画等の協議と共通理解 総合的な学習の時間の学習内容及び各教科との関連を意識した実施計画作成に向けた研修の実施
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 理論研修
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会・ユニタール広島事務所との連携
	8月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会・吉和地域の各事業所と連携
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 地域公開（総合的な学習の時間発表会）
	11月	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会との連携
	12月	<ul style="list-style-type: none"> 福祉プロジェクト開始・吉和PR活動・授業研究会
	1月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会・福祉プロジェクト発表会
令和3年度	4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題と研究内容，研究計画等の協議と共通理解（理論研修） 総合的な学習の時間の学習内容及び各教科との関連を意識した実施計画作成に向けた研修の実施
	5月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会，理論研修
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会，理論研修
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 吉和地域の各事業所と連携・社会福祉協議会との連携
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 廿日市市役所，シティプロモーション室，地域コミュニティ（吉和の未来を考える会）との連携
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 公開研究会（10月8日本校にて実施）
	1月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会・吉和PR活動
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと学習」発表会（廿日市市）・学習のまとめ

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 「教育課程の編成」

総合的な学習の時間を中心に据えたSDGsの視点による教育課程の見直し

- ・地域行事と連携した教育課程の編成

②「説明力の育成」

全教科、全領域での説明力を高める指導方法の工夫

- ・各教科等における説明力向上に向けた指導方法の工夫改善
- ・各教科等における説明力を生かせる場を意識した総合的な学習の時間の授業づくり

③「地域連携」

「SDGs」を共通のキーワードとした学校と地域の方々が相互に学び合える取組

- ・総合的な学習の時間における学校と地域の協働参画
- ・吉和地域、関係機関、各企業との連携（SDGsに関する調査及び提言）

(2) 具体的な研究活動

①総合的な学習の時間を中心に据えたSDGsの視点による教育課程の見直し

- ・「SDGs」の理論研修を行い、学習計画や実践に臨んだ。
- ・教科の系統性や教科間の関連性など、教育課程の編成の見直しをするために、SDGsの視点により総合的な学習の時間を再構成した。
- ・小3から中3までの総合的な学習の時間を異年齢の学習集団に分け、学習活動を2年間行い、小1・2の生活科を含めた9か年の見通した教育課程の編成の見直しを行った。
- ・令和2年度の総合的な学習の時間は、メインテーマを「『SDGs』で吉和の未来を考える～持続可能な吉和のまちづくりに向けて～」として、小3から小6、中1・2、中3の3つのグループに分かれて、それぞれの課題解決に向けて取り組んだ。
- ・令和3年度の総合的な学習の時間も令和2年度と同じテーマで、1学年進んだ形で新小3～小6・中1、中2・3の2つのグループに分かれてそれぞれの課題解決に向けて取り組んだ。

②全教科・全領域での説明力を高める指導方法の工夫

- ・計画的に校内研修（理論研、授業研）や授業参観週間を設け、授業力の向上を図った。
- ・毎時間「めあて」と「振り返り」の連動した吉和小・中の授業モデルである「よしわ学びのサイクル」に則った課題発見・解決学習型の授業を行った。
- ・授業（単元）の最後には「振り返り」を行い、授業のキーワードを使ってまとめを行い、自分の言葉や文字で表現させた。
- ・単元構想シートを使って単元計画を行い、「指導と評価の一体化」に基づいた評価計画、「めあてと振り返りが連動する授業づくり」を行った。
- ・意図的に児童生徒が発表できる場を多く設けた授業やICT機器を活用した授業を行った。
- ・各教科で育成した「説明力」の発表・検証の場として総合的な学習の時間の発表やまとめを活用した。

③「SDGs」を共通のキーワードとした学校と地域の方々が相互に学び合える取組

- ・令和2年度の地域連携では、吉和地域の事業所並びに廿日市市役所吉和支所、吉和社会福祉協議会、老人介護施設に連携協力していただき、事業所訪問インタビューやアンケート調査・SDGsの認知度調査から始め、地域の課題発見に努め、地域公開研で発表を行った。
- ・令和3年度は、上記の各機関に加えて、廿日市市の移住プロジェクトやPR活動を行っている廿日市市シティプロモーション室、吉和地域コミュニティの「吉和の未来を考える会」の方にリモートや対面で自分達の考えを伝えたり、アドバイスをもらったりした。
- ・中2・3年生は、「自分達にできること」というコンセプトの下、総合的な学習の時間に取り組んだことを生徒会活動に反映させ、校内にSDGsが広まるように活動した。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

①「教育課程の編成」総合的な学習の時間を中心に据えたSDGsの視点による教育課程の見直し

○「吉和の未来を考える」をテーマに、SDGsの視点による教育課程の見直しを2年間行ったことで、来年度からの9か年を見通した総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画、及び各教科の関連性が明確になった。

○児童生徒のSDGsによる地域づくりの意識が高まり、自分たちが発見した課題や提言を保護者や地域に発信することができた。また、異年齢での学習の場が生まれ、主体的な関わりや教え合い、学び合いを通して、人間関係をうまく形成することができるようになってきた。

●小3・4、小5・6が複式学級なので、隔年で教育課程や指導計画を作る必要がある。小中一貫の9か年を見通し、継続的・発展的に指導計画を改善していかなければならない。

②「説明力の育成」全教科・全領域での説明力を高める指導方法の工夫

○「よしわ学びのサイクル」について意識統一し、「めあて」と「振り返り」が連動した授業を全教科・全領域で取り組んだことで、児童生徒が授業のキーワードを使って、自分の言葉で説明したりまとめたりできるようになってきた。

○「単元構想シート」を使った授業づくりに積極的に取り組むことで、指導と評価の一体化に基づいて、児童生徒への学習に活かすことができた。

○児童生徒は、説明する機会が増えたことで徐々に自信をつけ、自己有用感が高まった。

●場面に応じた臨機応変な説明や応対ができる力や児童生徒の学力の向上が十分でなかった。さらなる説明力・学力の向上を図っていく必要がある

③「地域連携」「SDGs」を共通キーワードとした学校と地域の方々が相互に学び合える取組

○吉和地域の課題について、SDGsの視点で調べ発見した課題を検討し、課題解決の方法や取組を提案し、実践することができた。

○今回の取組で吉和支所、吉和社会福祉協議会、吉和未来を考える会や廿日市市役所シティプロモーション室などと連携して、吉和地域の課題に取り組むきっかけやパイプをつくることができた。また「大人からのアドバイス・支援」を得ることで、活動に自信をもつことができた。

○今まで行ってきた地域連携が「SDGs」という視点でベクトルが揃い、児童生徒が主体的に考える具体的な取組につながった。

●児童生徒がさらに吉和の良さを知り、各機関と連携して吉和のPRのしていくことや持続可能な吉和地域の未来の担い手として、何らかの形で児童生徒が吉和地域に「自分事として」関わられるような課題解決にも取り組んでいかなければならない。

4 今後の取組

「吉和の学校で学んでよかった」と言われるような「魅力ある学校づくり」と「持続可能なまちづくり」を目指し、次の3点に取り組む。

①今回作成した教育課程や学習指導の全体計画や年間指導計画を土台として、継続・発展していく取組を行っていく。

②「持続可能な学校実践」を行うため、児童生徒の「説明力」や主体性の更なる育成を図る。

③SDGsをキーワードとして、学校と保護者と地域が一体となって協働的に取組を継続していく。